

ようこそ、持続的共発展教育研究 センターの教育プログラムへ！ -新しい学理、そして人材を生み出す-

Welcome to Education Program by
“Education and Research Center for
Sustainable Co-Development”(SusCoDe)
-Generation of new scientific principle,
and human resources-

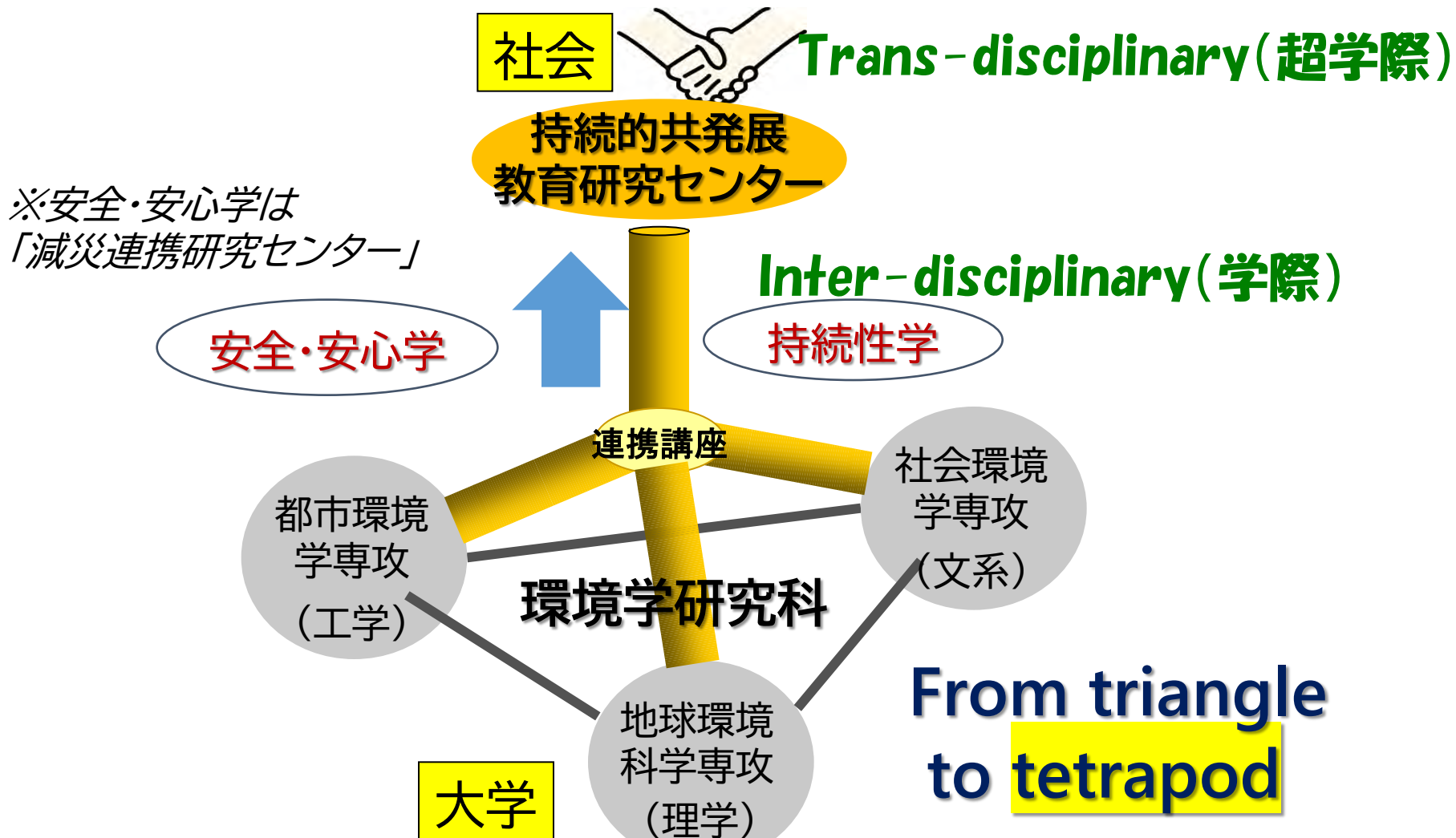
持続的共発展

検索 

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

持続的共発展教育研究センターの位置づけ

Positioning of "Education and Research Center for Sustainable Co-Development" (SusCoDe)



臨床環境学®コンサルティングファーム

-社会と大学研究者との「お見合い」の場-

Consulting Firm for Clinical Environmental Studies

「臨床環境学®」は、東海国立大学機構の登録商標です

- 企業・行政、市民などの皆様の**ワンストップ相談窓口**！
- 地域と大学の共同研究・**協力活動を創り出す場**！
- 新たな環境人材の育成と**キャリア開発**の機会！

<国内外の地域社会>



そのために
大学内の横連携！

<名古屋大学大学院>

6 研究科連携ESDプログラム

Nagoya University Education for Sustainable Development Program by 6 Graduate Schools

<http://www.nuesd.env.nagoya-u.ac.jp/>

The logo features a dark red background with a pattern of white icons representing various sustainable development goals (e.g., solar panels, bicycles, wind turbines, water drops, leaves, a globe, a factory, a recycling symbol, a lightbulb, a gear, a hand holding a leaf, a butterfly, a cube, a pencil, a gear, a factory, a globe, an umbrella).

2026年度
名古屋大学大学院
6 研究科 連携

ESD

プログラム Nagoya University
Education for Sustainable Development Program

環境学
国際開発
生命農学
工学
経済学
6 研究科 連携
Education for Sustainable Development
プログラム
人文学

SD(持続可能な発展)に関係する、6研究科の約60の授業科目
→ 他研究科の授業も受講でき、単位取得可能

環境学研究科 研究科内研究インターンシップ 参加学生募集!

環境学研究科では文工理のさまざまな研究室が多様な研究プロジェクトを行っています。
他研究室・他専攻の研究プロジェクトを体験できるのがこのインターンシップです。

1つの分野を極めればOKという時代ではありません。異分野の研究にふれることは将来のキャリアに必ず役立ちます。

研究科内の20名あまりの教員が、自分の研究プロジェクトへの参加者を募集しています。指導教員の承認を得た上で、他研究室での研究活動を体験します。30時間の従事で共発展センター長名の履修証明書を発行します。90時間の従事で「インターンシップ」単位として認められます。ふるってご参加ください。

研究テーマの例 他にも多数あります

受け入れ教員 研究テーマ 手続き方法 →
研究科内研究インターンシップ Web サイト



地球の変動 / 地震波速度構造の時間変化に関する研究



震災復興 / 東日本大震災後の復興プロセス



河川の生態 / 河川水生生物の採取と同定・分類; 環境変動に対応した水生生物多様性評価



森林の生態 / 地中レーダーを用いた森林の根系評価



木材利用 / 木材資源の地産地消を推進する仕掛けづくり



都市計画 / 21世紀にふさわしい環境配慮型の都市・地域計画のためのフィールドサーベイ



公共交通 / 地域公共交通計画づくりに関わる現地調査やデータ集計・解析によるニーズ調査



建築環境 / 全館空調式住宅の住まい方



問い合わせ

internship@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp

研究科内 研究インターンシップ

- 様々な分野の研究室がある環境学研究科の他研究室の研究プロジェクトに一時参加することが可能
- 所定の時間従事すれば、履修証明書や単位が得られる

※主指導教員の許可が必要

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/post.html>

「共発展 インターン」で検索

Join us in tackling local challenges in the field!

Education and Research Center for Sustainable Co-Development presents

Clinical Environmental Studies Program

All doctoral students of Nagoya Uni. can take this program.

「臨床環境学®」は、東海国立大学機構の登録商標です
Clinical Environmental Studies is a TRADEMARK of Tok National Higher Education and Research System

◎博士後期課程向け。環境学研究科はもちろん、全学どこからでも参加可能。修了証を授与

For doctoral students. Open to students from all graduate school in Nagoya university. Getting certificate.

◎異分野の学生・教員とともに、環境問題について多角的に考えることができる

Students and professors from different fields can think about environmental issues from multiple perspectives.

臨床環境学プログラムへの参加で何が得られるか？

What do you get by joining our program?

Exiting! Interesting! and Cool!

- コミュニケーションが得意になる(対人、対自然) Get strong communication skills (interpersonal and environmental).
- 異分野・一般社会での知り合いが増える Increase your acquaintances in different fields and in general society.
- 視野が広がる Broaden your perspective.
- 日本のことがわかる Understand Japan.

すなわち「俯瞰力」と「現場力」 “Overlooking” & “Acting real fields?”

→ 「ただの博士・修士」は上記のスキルは不要

「何か新しいことをやらかす博士・修士」になる

“Just a PhD/Master's holder” doesn't need the above skills.

Become a “PhD/Master's holder who does something new.”

→ 「専門の研究者」以外のキャリアパスを拓く

究極の狙いどころは「起業家」「政治家」の輩出

Open up career paths other than “specialized researcher.” The ultimate goal is to produce “entrepreneurs” and “politicians.”

つまり、世の中をいい方向に変える人！ いま、世界が求めています！

In other words, people who change the world for the better! The world is looking for such people now!

臨床環境学プログラムの授業（後期課程）

Doctor course program of Clinical Environmental Studies (ALL: Japanese and English)

•On-site Research Training (ORT): 臨床環境学研修 (3 credits)

国内のフィールドにおいて、異分野の教員・学生からなるチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。

•On-campus Seminar: SDGs基礎セミナー (2 credits)

臨床環境学とは何か、また、持続可能な開発とSDGsの基礎的内容を学ぶとともに自身の研究テーマがSDGs達成にどう貢献できるかを考える。 ※博士(環境学)の単位取得要件<他専攻科目>に使える



ORTの日程

月	行事	内容
4月下旬	立ち上げ会合	概要説明、グループ分け
5月	準備会合	各個人の興味に応じた対象地域に関する発表
6月	定例打合せ	現地見学会の準備
6～7月 (宿泊)	現地見学会 (スタディツアー)	現地を訪問し調査・ヒアリング
6～12月 (毎月 1回程度)	個別調査・分析	各グループで個別に実施
	定例打合せ	各グループの進捗状況確認
12～3月 のどこか	現地報告会	地域の皆様に研究成果を見ていただくとともに議論し、今後の調査研究へつなげる
2～3月	最終報告書作成	報告書として形に残し、地域にも手渡す

ORT Schedule

Month	Event	Contents
Late April	Start-up meeting	Overview of this class, Group division
May	Preparation meeting	Presentations on the site tailored to individual interests
June	Regular meeting	Preparation of study tour
June or July (3days)	Study tour on the site by all members	Visiting the site and conducting surveys and interviews
June to December (every one month)	Individual surveys and analyses	Conducted individually for each group
	Regular meeting	Checking the progress of each group
December to March	On-site report session	The research results will be shown to local people, discussed, and used to guide future research
February to March	Creation of final report	The results will be compiled in a report and handed over to the local community

2025年度ORT(一宮市) Group & theme

<メンバーの専門分野>

- ・森林社会共生学(留)
- ・社会的合意形成(社)
- ・気象シミュレーション



<選択したテーマ>

自然共生サイト
グリーンインフラ
浸水対策

*Nature coexistence sites
Green infrastructure
Flood control measures*

2025年度最終報告会（2026年3月23日開催）

Final report conference in Ichinomiya city



日時：2026年3月23日（月）14:30～

会場：一宮市役所本庁舎1102会議室

申込み・参加費不要

どなたでもお気軽にご参加ください。

プログラム

14:30 開会挨拶

高野 雅夫（名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
持続的共発展教育研究センター長）

14:40 「臨床環境学」研修（ORT: On-site Research Training）について
林 亮太（名古屋大学大学院 環境学研究科 助教）

14:50 一宮市民に受け入れられるグリーンインフラのあり方
博士後期課程学生：中務 亜紀

15:10 一宮市における自然共生サイト認定のポテンシャル
博士後期課程学生：Habib Muhammad

15:25 内外水氾濫モデルを用いた一宮市における治水施策（田んぼダム等）の導入
効果推定

博士後期課程学生：徳植 啓康

15:45 ポスターセッション

16:20 意見交換会

進行：加藤 博和（名古屋大学大学院 環境学研究科 教授）
講評：中野 正康氏（一宮市長）

17:15 閉会挨拶

谷川 寛樹（名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
環境学研究科長）

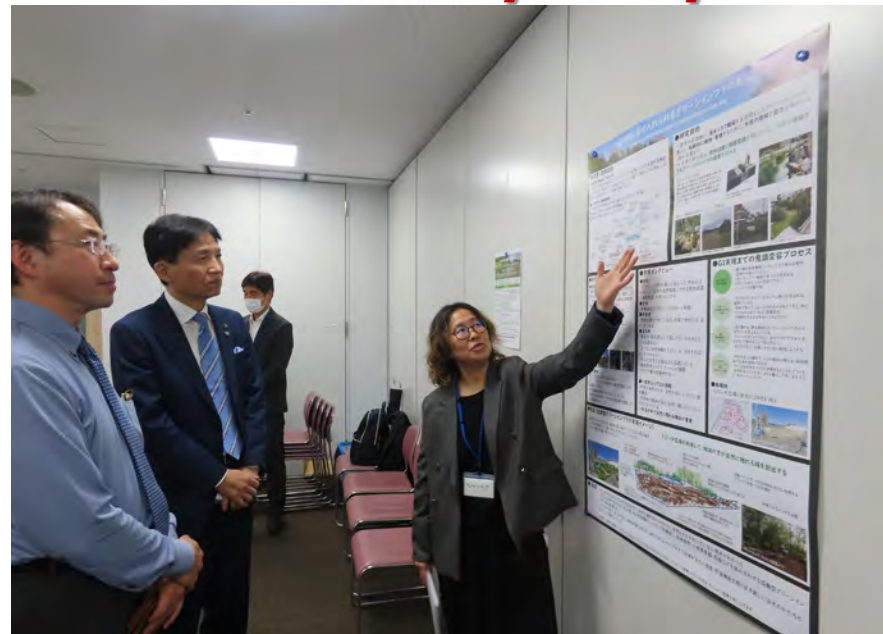
司会進行：山下 博美（名古屋大学大学院 環境学研究科 客員教授）

主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力：一宮市

問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局（宮坂）TEL: 052-747-6547

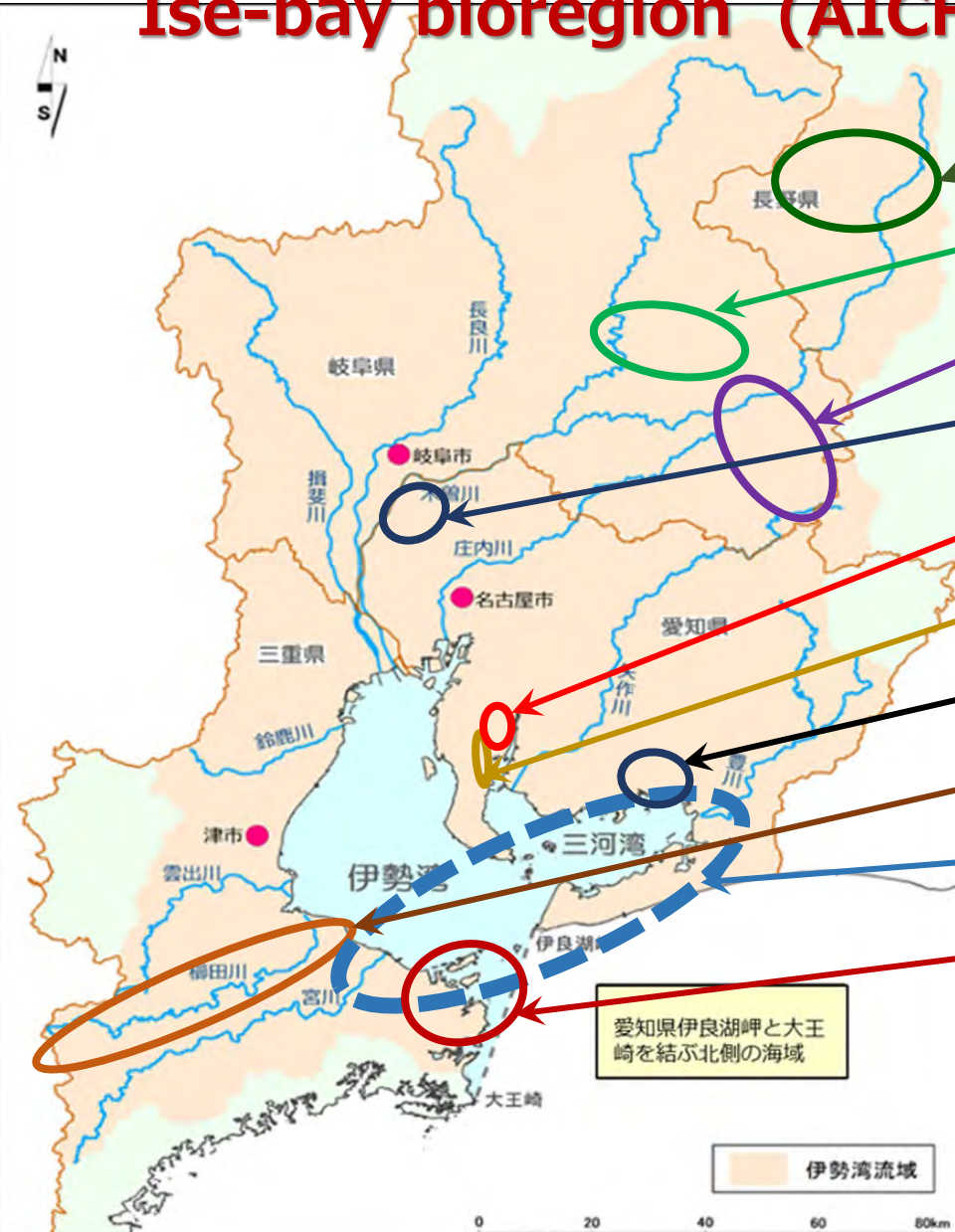


SusCoDe



伊勢湾流域圏 (愛知・三重・岐阜・長野県)

Ise-bay bioregion (AICHI, MIE, GIFU, NAGANO)



- 2019・20年度 木曾町
- 2017・18年度 白川町・東白川村
- 2015・16年度 恵那市
- 2025年度 一宮市**
- 2021・22年度 東浦町
- 2010年度 阿久比川流域
- 2026年度 蒲郡市**
- 2011・12・14年度 檜田川流域
- 2013年度 伊勢湾沿岸域
- 2023・24年度 鳥羽市

人口 約11百万人
面積 約20,000km²

愛知県伊良湖岬と大王崎を結ぶ北側の海域

Let's begin the journey of clinical environmental studies!

2026年度のフィールド:蒲郡(がまごおり)市(愛知県)

ORT Field in AY2026: GAMAGORI city (Aichi pref.)



【重要】「臨床環境学プログラム」を中心として 博士後期課程に進学できます！

通常、博士後期課程進学にあたっては、研究テーマをある程度決めて臨む。その上で臨床環境学プログラムを受ける

→ **当センターでは、研究テーマを決めないで(柔軟に変える可能性があるものとして)進学することが可能**

- 主指導教員として当センター専任・兼任・協力教員から選択(教員に相談し承諾を受けることが条件。自分で決められない場合はセンターに相談)
- 入試はその教員が所属・兼任する専攻・系で受ける
- D1で臨床環境学プログラムを受講する中で、テーマを見つけていく。
- 臨床環境学プログラム終了後、決めたテーマに沿う指導体制(主・副指導教員)に変更
- 学位取得を目指し研究を進める

共に創る 持続可能な社会

途上国と先進国 自然と人間 農山漁村と都市 大学と社会



<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

質問・相談は、こちらへどうぞ。

If you have any questions or consultation, please contact us.

持続的共発展教育研究センター 事務局（環境総合館4階407室）

Education and Research Center for Sustainable Co-Development

TEL: 052-747-6547

cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp